

タイにおける自動車産業の概況
 ～新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえて～
 一般調査報告書

要旨

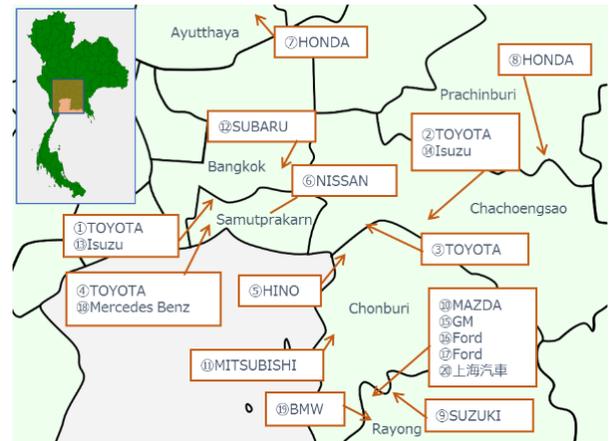
タイはアジアのデトロイトと評され、歴史的に自動車産業が集積してきました。新型コロナウイルスの感染が拡大し、世界経済が低迷する中で、大手完成車メーカーが生産調整に踏み切るなど、タイの自動車産業は急減速しています。今回のレポートでは、①タイにおける自動車産業の集積状況を整理した上で、②新型コロナウイルスがタイの自動車産業に与えている影響を把握するとともに、③厳しい経済環境下における自動車メーカーの新たな取組を紹介します。

1. タイにおける自動車産業の集積

国際自動車工業連合会の発表によると、タイは2019年に2,013,710台を生産した世界第11位の自動車生産国です。タイの自動車産業は、トヨタ自動車が生産拠点を展開しています(図1)。

過去30年間のタイにおける自動車生産台数の推移を図2に示します。アジア通貨危機、リーマンショック、洪水といった危機を乗り越え生産台数を増やしてきた軌跡が見て取れます。2011年の洪水被害に対する自動車産業支援策として、購入時の物品税を還付する購入奨励策(ファーストカーバイヤープログラム)が導入され、国内販売が急増したことで2012年、2013年の生産台数は250万台に届く勢いでした。その後、国内需要の先食いによる国内販売台数の減少や米中貿易摩擦を受け、近年は200万台前後の生産台数を維持してきました。

タイの自動車生産の特徴の1つ目は、ピックアップトラックの生産が過半を占めることです(図1)。ピックアップトラックは小型貨物自動車の一形態で、車体前方にボンネットを持つトラックの総称です。細い路地の多い日本では馴染みが薄いですが、オフロード用のタイヤを装着した迫力ある車体



No.	メーカー名	工場立地場所	操業開始	生産能力/年	主な生産車種
①	TOYOTA	Samrong	1964	240,000	Fortuner, Hilux Revo
②	TOYOTA	Gateway	1996	300,000	Camry, Corolla Altis, Corolla, Yaris
③	TOYOTA	Ban Pho	2007	220,000	Fortuner, Hilux Revo
④	TOYOTA	Samutprakarn	1988	10,000	Commuter
⑤	HINO	Bang Pakong	1965	40,000	Hino 300 500Series, RK-Series
⑥	NISSAN	Samutprakarn	1977	370,000	March, Teana, Sylphy, X-Trail
⑦	HONDA	Ayutthaya	2002	300,000	Accord, Mobilio, CR-V, HR-V
⑧	HONDA	Prachinburi	2016	120,000	Civic, Jazz, Jazz Hybrid, City
⑨	SUZUKI	Rayong	2012	100,000	Swift, Celerio, Ciaz
⑩	MAZDA	Rayong	1998	135,000	Mazda2, Mazda3, CX-3, CX-30
⑪	NISSAN	Laemchabang	1992	510,000	Lancer EX, Pajero Sport, Mirage
⑫	SUBARU	Bangkok	2019	30,000	Forester
⑬	ISUZU	Samutprakarn	1966	226,000	D-Max, MU-X, N-Series, F-Series
⑭	ISUZU	Gateway	1997	140,000	D-Max, MU-7
⑮	GM	Rayong	2000	180,000	Colorado, Trailblazer
⑯	FORD	Rayong	2012	180,000	Focus, EcoSport, Fiesta, Ranger
⑰	FORD	Rayong	1998	140,000	Ranger, Everest
⑱	Mercedes Benz	Samutprakarn	1981	34,000	C-Class, E-Class, S-Class
⑲	BMW	Rayong	2000	40,000	1,3,4,5,7,X1,X3,X4,X5, MINI
⑳	上海汽車	Rayong	2014	100,000	MG3, MG5, MG ZS, MG HS

図1 タイにおける完成車工場の分布

各社の報道情報などに基づき作成。生産能力は推測値も含まれる。

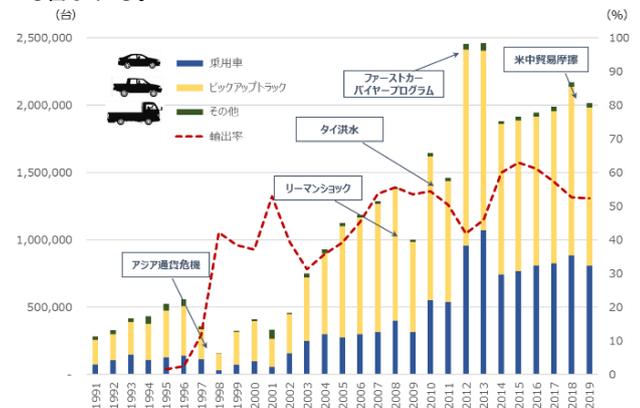


図2 タイにおける自動車生産台数の推移
 タイ工業連盟の公表データに基づき作成。

は東南アジアをはじめ、オセアニア、アフリカ、北米、南米などで人気です。また、ピックアップトラックをベースにしたピックアップ乗用車も注目を集めています。

特徴の2つ目はタイ国内の販売台数において日系メーカーが高い販売シェアを有していることです(図3)。トヨタ自動車単独で30%、日系メーカー全体では90%前後の圧倒的なシェアがあり、街中を走る車のエンブレムは日本人にとって身近なものが多いです。

特徴の3つ目は、生産した自動車の半数を海外へ輸出していることです(図1及び4)。タイでは、アジア通貨危機を契機に、海外輸出を増やしてきました。輸出先は、アジア、オセアニアを中心に世界中に広がっており、北米市場を除きピックアップトラックの輸出が多い状況です。アジアでは、フィリピン、ベトナム、インドネシアなどの東南アジア諸国と中国が、オセアニアではオーストラリアとニュージーランドが主な輸出先になっています。中東は2014年以来の原油価格の低迷により市況が悪化しており、直近5年間で輸出台数が半減しています。

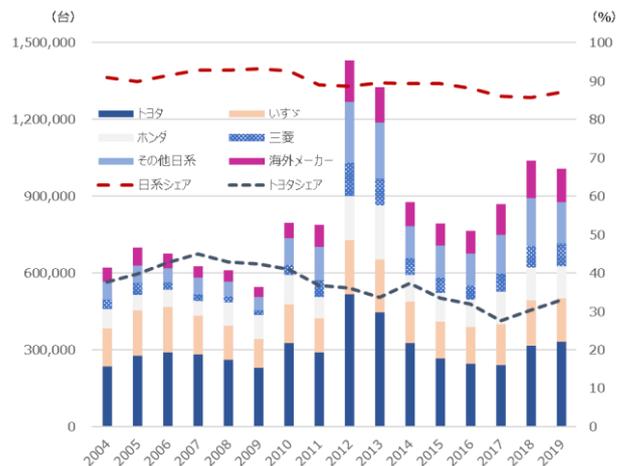


図3 タイにおけるメーカー別販売台数の推移 バンコク日本人商工会議所公表データに基づき作成。

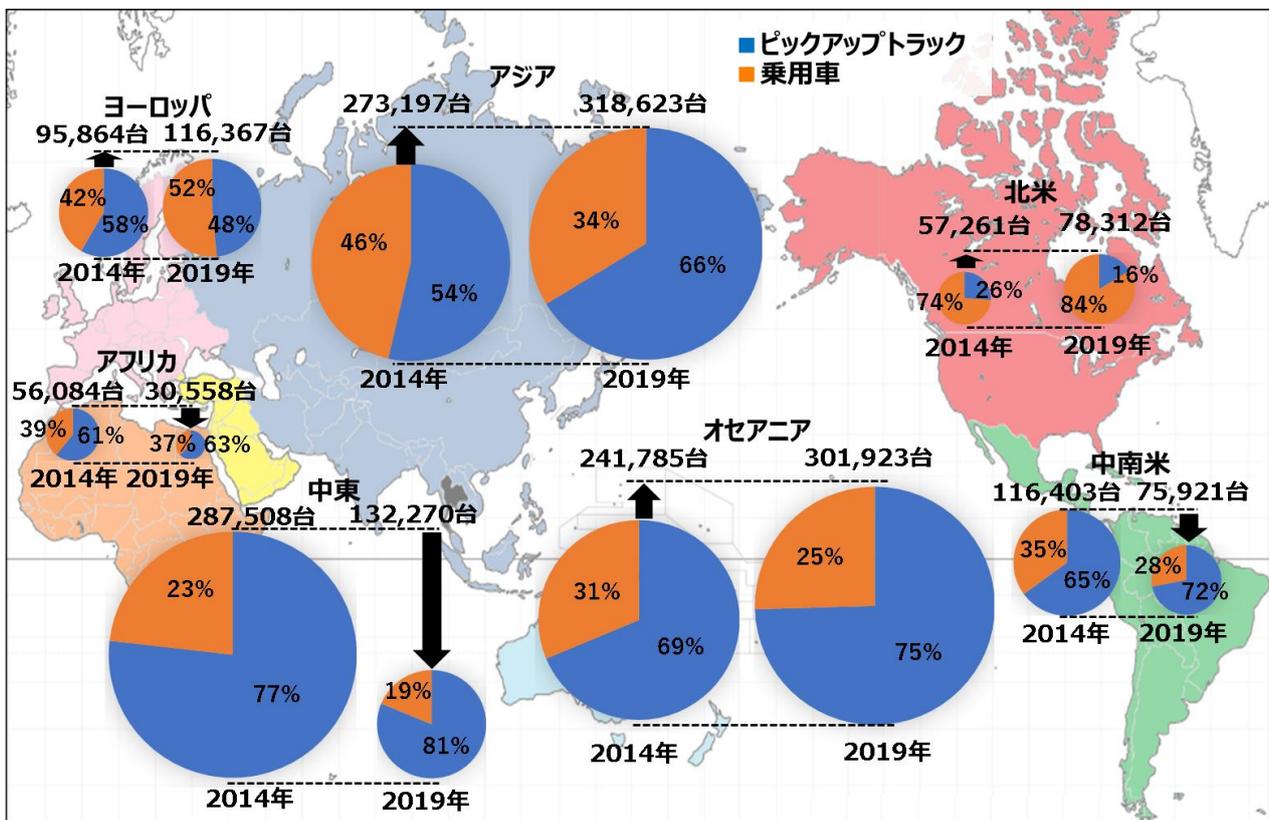


図4 タイで生産された自動車の輸出先の傾向 バンコク日本人商工会議所公表データに基づき作成。

タイ自動車産業の強みは、2,400社を超える部品サプライヤーや、生産工程を支える金型メーカー、エンジニアリング企業などが多数進出しており、関連産業の裾野が広いことです。自動車生産はインドネシアやベトナムでも行われていますが、これらの国に進出する企業から、現地で調達できる部品や技術サービスが限定的であるとの相談も良く寄せられます。また、その解決策として、タイのサーポーティングインダストリーを活用する例も多くあります。

2. 新型コロナウイルスがタイの自動車産業に与えたインパクト

新型コロナウイルスの拡大により、タイでは外国人観光客の受け入れ停止や商業施設等の閉鎖に伴い、国内市場が減速しました。同様の景気後退はタイ自動車産業の輸出先を含む全世界で同時並行的に広がっています。自動車需要の減少を受け、タイでも完成車メーカーが工場の生産ラインを一時的に停止する生産調整に踏み切りました(表1)。

最近のタイにおける自動車生産台数、販売台数及び輸出台数の推移をみると、これまでも国内景気の後退や金融機関による自動車ローン規制の強化による国内販売の低迷や、米中貿易摩擦などの影響を受けた輸出の減速により下降傾向にあったものが、コロナ禍で大幅に落ち込んでいます(図5)。

4月実績は、国内販売は外出自粛の影響もあり、前年同月比60.5%の減少となりました。輸出は、全地域への輸出台数が減少しており、主な輸出先であるアジア地域で60.4%、オセアニア地域で82.4%、全体では69.7%の落ち込みとなっています。

これらを受け、生産台数は前年同月比83.6%減の24,711台に激減し、30年ぶりの低水準となりました。5月下旬の段階では、完成車メーカーの工場が再稼働する報道もなされていますが、マツダが6月にも生産調整を実施する方針を示すなど、今後も生産台数が回復するまでには時間を要する見込みです。タイ工業連盟は今のところ2020年通年の自動車生産台数の見通しを100万台から140万台としています。世界中の新型コロナ感染状況によっては100万台を割る可能性もあると言及しています。

今回のコロナショックがタイの自動車産業に大きな影響を与えていることは明白で、裾野産業を支える中小企業への打撃が心配されます。タイ工業連盟も、①自動車の物品税率半減、②下取り補助制度の導入③欧州排ガス規制「ユーロ5」の導入時期延期といった自動車産業向け支援策の要請や、自動車部品工場での医療機器や航空機部品の生産可能性調査に取り組んでいると報道されています。(物品税の減税措置は財務省が拒絶姿勢を示す。)

バンコク産業情報センターでは、JETROバンコク事務所が取りまとめたタイ政府の経済対策リストや、

表1 自動車メーカーのタイ生産拠点 稼働状況

メーカー名	工場名	稼働停止期間
TOYOTA	Samrong	4/7 ~ 5/10
	Ban Pho	4/7 ~ 5/10
	Gateway	4/7 ~ 5/24
NISSAN	Samutprakarn	4/6 ~ 5/31 一部は減産で生産継続
HONDA	Ayutthaya	3/27 ~ 5/6
	Prachinburi	3/27 ~ 5/3
SUZUKI	Rayong	4/6 ~ 5/6
MAZDA	Rayong	3/30 ~ 4/26 その後 生産と停止を繰り返す
MITSUBISHI	Laemchabang	4/1 ~ 4/26 5/1 ~ 5/17
ISUZU	Samutprakarn	4/13 ~ 5/4
	Gateway	4/13 ~ 5/17
HINO	Bang Pakong	4/7 ~ 5/10

各社広報・プレスリリース、報道情報等から作成

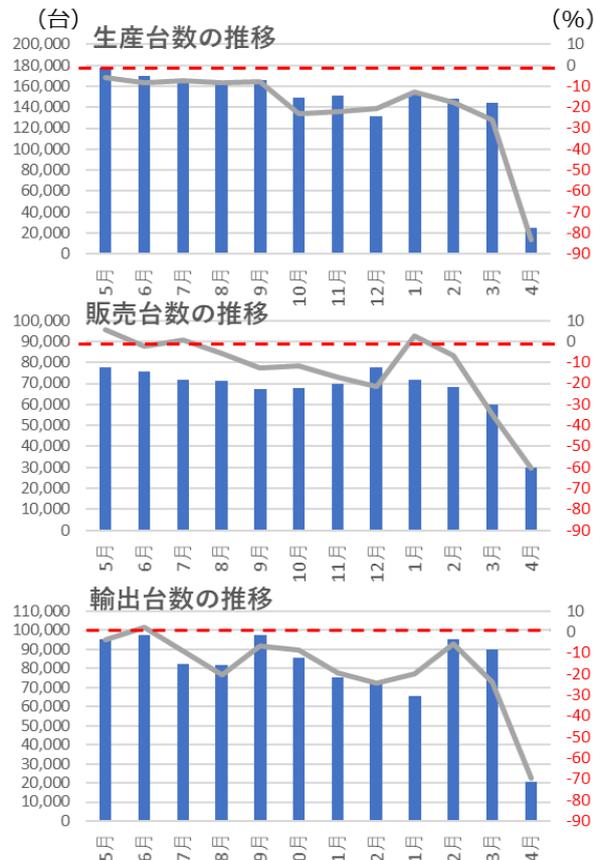


図5 タイにおける自動車月別生産・販売・輸出の推移
タイ工業連盟の公表データに基づき作成。
折れ線グラフは対前年同月比。

法務・労務の FAQ、従業員に感染者が出た場合の対応事例などを情報提供するため、コロナ禍の厳しい事業環境下にある愛知県企業のタイ拠点に対して電話やメールでヒアリングを行いました。50 社を超える企業の方々とお話をさせていただいた結果、業務内容に応じて、大きく 3 つの傾向が確認されました。

完成車メーカーに量産部品を供給するサプライヤーは生産調整の影響を直接受ける厳しい立場となっています。完成車メーカーの工場停止が報道されて数日後の 4 月半ばから受注減の連絡が入りはじめ、夜勤の中止や週休日の増加、一部ラインの停止といった対応が始まりました。受注が少ない期間に従業員の教育や社内の改善を図りたいといった前向きなコメントもありましたが、給与の 75%を休業補償として従業員に払いつつ、一時的な休業とする企業も多く、今後の資金繰り悪化も懸念されています。

金型メーカーや設備メーカーなど、新規モデルの生産立ち上げや開発工程に携わる企業からは、中長期的な開発案件は継続して実施されているため、短期的な業績に影響を受けることは少ないとの声が聞かれました。無論、これらの企業についても、コロナ禍の影響が長引き、完成車メーカーの開発方針が変更となる恐れは残っていますし、国境を越えた人の移動が制限される中で、必要な技術者をタイへ呼び込むことが出来なかったり、契約責任者との面談が中止となったりといった影響は生じている模様です。

一方で、生産ラインのエンジニアリングを担当する企業では、生産調整期間中に生産ラインの強化をはかりたいというメーカーの声で、急に受注が増える動きもあるようです。4 月から 5 月までの短期間で、新たに設計した機器を据え付け終える必要があり、ASEAN 周辺国の倉庫に保管している部材を、限られた航空便でタイへ移送するなど、慌ただしいオペレーションが続いているという話もありました。

上述のように、自動車産業に関連する企業の中でも影響が異なることは、タイにおける産業集積の厚さを裏付けるものと考えます。また、タイから周辺国や北米への部品供給を行う企業や、電機や建設機械など自動車以外のサプライチェーンへの多角化を図った企業など、事業ポートフォリオを拡大することで自動車産業の減速による影響を緩和させている企業もありました。今後も、バンコク産業情報センターでは 1 社でも多くの愛知県企業の皆様に、新型コロナウイルス対策の情報提供や、専門家相談のアレンジができるよう努めてまいります。タイでの事業展開にお困りのことなどありましたら、ご連絡いただければ幸いです。

3. コロナ後を見据えた自動車産業の新たな動き

コロナ禍により大きな減速感があるタイの自動車産業ですが、今後の発展につながる前向きな動きもあります。1 つ目は、電動化への対応です。タイ政府は長期経済開発計画 Thailand 4.0 に基づき、自動車産業を高度化する狙いで、税制優遇の恩典を設けて自動車メーカーに電動車の生産を促してきました。日本の自動車メーカーの多くは 2018 年末の申請期限までに生産計画案を提出しており、三菱自動車やトヨタ自動車が 2021 年から 2023 年にかけて電気自動車やプラグインハイブリッド車の生産を開始する計画が報道されています。経済的活動の減速により、大気汚染の解消が報告されるなど、環境との経済の両立が見直される中、タイの自動車産業が電動化でリードすることが出来るのか注目されます。

2 つ目は新たな販売促進手法の模索です。厳しい経済環境下で自動車販売台数を確保するため、各社とも自動車ローンの返済猶予制度を導入しています。それに加え、社会的距離の確保が求められる中、自動車の販売やメンテナンスにも新たな動きが見られます。プジョー、日産自動車、スバルなどは、オンラインで予約を行い、自宅周辺で試乗するサービスを実施しています。

客足が減った自動車販売店の中には、独自に Facebook のライブ配信機能を利用した自動車紹介チャンネルを運営するところ

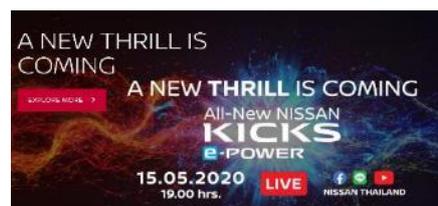


図 6 日産自動車の新型車 WEB 発表会
出所:NISSAN THAILAND WEB サイト

もあります。実際に視聴してみると、視聴者から随時投稿される質問に答えつつ車の魅力をアピールしたり、トランクルームの積載量をアピールするために段ボール箱がいくつ積めるかをクイズ形式で紹介したりするなど、工夫を凝らした演出が行われていました。ライブ配信後も動画を閲覧できるようになっており、閲覧件数が4,000件を超える動画も複数あることから、一定の広告効果を生んでいるものと推測されました。

また、日産自動車では、バンコクモーターショー2020の開催延期を受け、当該モーターショーで発表する予定だった新型車の発表会をWEBで行いました(図6)。コロナ禍でタイにおけるEコマースの利用が35%拡大したとの報道もありました。自動車産業においても、WEBを通じた顧客とのコミュニケーションが進展し、双方向のコミュニケーションが促進されることが予想されます。

4. おわりに

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、入国制限、商業施設の閉鎖、アルコールの販売禁止といった対策を迅速に展開してきたことが功を奏し、5月に入ってからは新たに発見される患者数が0の日もあるなど、タイ国内では新型コロナウイルスが比較的上手く抑え込まれています。レストランでの食事が認められるようになったり、アルコールの販売が認められたりするなど、徐々に経済活動も再開されています。日本人学校も5月1日よりオンライン授業を開始しました。自由奔放な小学生がオンライン授業に集中できないのはご想像のとおりで、我が家を含む多くの家庭で親子のバトルが展開されています。

5月17日からは、ショッピングモールも営業を再開しました。約2カ月間の臨時休業を経ての営業再開を従業員やマスコットが祝う姿が印象的でした。開店直後から、日本の書籍を取り扱う書店には家族連れの人々が列を作り、漫画や学習用ドリルを大人買いする姿が見られました。スマートフォンのアプリで入退店を記録することで、万一、ショッピングモール内で感染者が見つかった場合に濃厚接触者との連絡を取ることができる仕組みも導入されており、コロナとの共生はまだまだ続きそうです(図7)。



図7 大型ショッピングモール営業再開の様子

左から:開店前のセレモニー、日本書籍を扱う書店前では入店待ちの列、QRコードをスマートフォンで読み込み入退店を管理

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。